

第1回港区区政会議こども青少年部会 議事録

- 1 日 時 令和元年6月25日(火)午後7時～
- 2 場 所 港区役所5階会議室
- 3 出席者(委員) 有田委員、大野委員、熊本委員、近藤委員、高橋委員、
法連委員、発坂委員、前川委員、村田委員、森岡委員、
藪井委員、藪本委員
(オブザーバ) 波除小学校 加藤校長
(港区役所) 筋原港区長、遠藤港区副区長、藤田総合政策担当課長、
三上教育担当課長、高安窓口サービス課長、
北島協働まちづくり推進課長代理、
- 4 議 題 平成30年度予讃の施策・事業の評価について
平成31年度の取組について
その他

○北島協働まちづくり推進課長代理 皆さん、こんばんは。定刻となりましたので、ただいまより令和元年度第1回港区区政会議こども青少年部会を開催させていただきます。

本日は、お忙しいところ、また夜分にもかかわりませず、ご出席いただきましてまことにありがとうございます。

私は、本日の司会を務めさせていただきます港区役所協働まちづくり推進課長代理の北島と申します。どうぞよろしく願いいたします。

初めに、区政会議は大阪市の条例に基づく会議となっております、その条例第7条5項に定めておりますとおり、委員の2分の1以上の出席がなければ開くことができないこととなっております。

ただいまの委員の出席状況は、定数が17名のところ9名のご参加をいただいておりますので、本会は有効に成立していることをご報告させていただきます。

あわせて、本日は、本会オブザーバーといたしまして区内市立小学校校長会の幹事校長先生にもご出席をいただいておりますので、ご報告させていただきます。

また、本会議は公開となっております、後日、会議録を公表することとなっておりますので、会議の内容を録音させていただきます。ご理解、ご協力をお願いいたします。

なお、マイクを通したほうが録音状態が非常によくなりますので、ご発言の際はマイクの使用をよろしく願いいたします。

それでは、開会に当たりまして筋原港区長から一言ご挨拶をさせていただきます。

○筋原区長 皆さん、こんばんは。港区長、筋原です。

本日は、皆さんお忙しい中、お集まりをいただきましてありがとうございます。

本日の区政会議こども青少年部会、去年、平成30年度の振り返りと、今年、令和元年度の取組についてご説明をさせていただきます、また忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。よろしく願いを申し上げます。

それから、いよいよ明後日からG20大阪サミット開催ということで、4日間、木・金・土・日と、阪神高速も止まり、多分下道も車いっばいで動かなくなって、今、全国から警官、機動隊の皆さん、また船の関係も、警備艇も含めて、全国からここへ集結していますので、多分、中央大通、みなと通、警官、機動隊ずらっと並んで、職務質問もかけはると思うんで、外出もままならないという状態になるかと思いますが、全てはとにかくテロ対策ということでございますので、ご理解をお願い申し上げます。特に木・金が、子どもたち、小学校も中学校もお休みとなるわけですが、テロ対策という点では、とにかく人が集まるところはテロ

の標的になりやすいということですので、とにかく4日間は人の集まるところに行かない、子どもたちも人の集まるところに行かせないということで、いつも地域の皆様にもお願いを申しあげていますので、どうぞよろしくお願いを申しあげます。

それでは、本日どうぞよろしくお願いをいたします。ありがとうございます。

○北島協働まちづくり推進課長代理 続きまして、藪井議長からご挨拶をいただきます。よろしくお願いをいたします。

○藪井議長 皆さん、お疲れさまです。藪井です。

また、来年度の施策、新しい学校教育のあり方、そうしたものもこの中で議論されていくということです。この会は、区政会議であると同時に教育会議も兼ねておりますので、区の中で学校教育に関係するもの、青少年の育成に関係するものを、この中でしっかりと議論させていただきたいというふうに思っております。

個人的な資料として、実は港区の小中学校の主な制度変更という資料を出させていただきました。来年、令和2年には小学校のほうでの学習指導要領の新しいものが全面実施される、その次は中学校の指導要領が全面実施されるというような状況になっております。10年、20年変わっていたものが変わったわけではないので、ある程度のスパンで中の変更をどんどんしていつているものではありませんが、その中で、それを受けて、区内の小中学校、そして教育に関わる、子どもの育成に関わる我々の立場で、どういった受けとめ方をすべきなのかということも、この中であわせて議論させていただけたらなというふうに思っております。

資料として出していますので、これに基づいて何かをするというわけではありません。ただ、皆さんの中で、今まで時系列の中であったことというものを、この中で踏まえながら、また議論の助けになればなと思って出させていただきました。

それでは、30年度の施策の事業評価を、区役所のほうからまずはさせていただきたいというふうに思っております。よろしくお願いをいたします。

○北島協働まちづくり推進課長代理 それでは、議事に入ります前に資料の確認のほうだけさせていただきますよろしいでしょうか。恐れ入ります。

事前配付資料といたしましてAからFの6種類、事前にお送りさせていただいております。

あと、本日配付の資料といたしまして、次第、それから委員名簿、配席図、そして、横向きになるんですが、カラー刷りの港区区政会議こども青少年部会30年度振り返りということで、こちらの資料を中心に説明のほうをさせていただきます。

あと、その他資料といたしまして5点、その下につけております。表題に、港区の適正配

置対象校と直近の児童数等の推移と記した……

○高橋委員 待って、待って。早い。

○北島協働まちづくり推進課長代理 申しわけございません。ゆっくり申し上げます。

○高橋委員 ゆっくりね。全然チェックでけへん。

○北島協働まちづくり推進課長代理 申しわけございません。

では、次第からもう一度確認させていただいてよろしいでしょうか。失礼いたしました。

まず本日の次第。それから委員名簿。そして配席図。

それと、一旦資料の束は変わるんですが、横向きの資料で、区政会議こども青少年部会平成30年度振り返りというこちらの資料、こちらを中心にご説明させていただくこととなります。

それと、あとその下に、表題に港区の適正配置対象校と直近の児童数等の推移と記した、4枚物で8ページ、ホッチキス留めをした資料です。それとあと、チラシ関係ということで、大阪市こどもサポートネットのお知らせの黄色いチラシと、それから教科書展示会のチラシ、そして港区人権啓発だよりヒューマンハートと拉致被害者支援のチラシです。

あと、資料の束は変わるんですけれども、区政会議こども青少年部会に関するアンケート、それと区政会議の構成に関するアンケート。

そしてあと、参考資料といたしまして、区政会議に関する条例と港区区政会議運営要綱と、あと、本日議長がお持ちくださいました港区の小中学校の主な制度変更の資料。

以上でございます。資料、揃っておりますでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、こちらからの進行、議長、よろしく願いいたします。失礼いたします。

○薮井議長 議題2のほうに移らせていただきます。平成30年度の施策・事業の評価について、区役所のほうから説明をお願いします。

○三上教育担当課長 皆さん、こんばんは。教育担当課長の三上でございます。どうぞよろしく願いいたします。

すみません、ちょっと着座して説明させていただきます。失礼します。

私から、議題の(1)平成30年度の施策・事業の評価について、また、(2)平成31年度 of 取組についてを一括説明させていただきます。その後また、議事、ご意見いただきたいと考えております。

また、委員の皆様事前に港区運営方針に係る資料をお配りしているところですが、本日

は皆様からのご意見、ご議論の時間を多くおとりしていますことから、事務局の説明につきましては内容を集約したパワーポイントの資料をお手元に用意しております。お手元の資料もスクリーンの内容も同じでございますので、よろしく願いいたします。

では、始めさせていただきます。

まず、2ページを御覧ください。経営課題の3、健やかにいきいきと暮らせるまちづくりから人権の課題、また、経営課題4、「子どもの学び」と「子育て世代」を応援するまちづくりから教育の課題、この2つを戦略として位置づけております。

続きまして、3ページを御覧ください。戦略3-5、多様性を尊重しあう共生社会づくりの推進でございますが、中段の平成30年度の目標として、「一人ひとりの人権が尊重されているまちである」とお答えいただいた区民の割合を、平成27年度をベースとしまして毎年1%以上上げて、昨年度、平成30年度、32.7%を目標数値としておりましたが、残念ですが未達成となっております。今年度の取組といたしましては、下段にも市民協働的な手法と書いておりますが、具体には、人権推進委員さんの中に当事者の方や支援者、アライアンスの方に入ってくださいまして、テーマに沿って活動いただくことなどを考えております。

続きまして、4ページを御覧ください。①区における人権啓発推進・人権相談につきましては、目標を達成しております。

続きまして、5ページを御覧ください。具体的取組としまして、昨年度は港区におきまして人権展・人愛ふれあいプラザを開催しまして、11月30日から12月4日までの5日間で約1,500名の方に入場いただきました。地域食堂から学ぶ取組や、学校の先生方にも呼びかけさせていただきまして発達性協調運動障害への理解と支援を深める講演会なども開催しました。

続きまして、7ページを御覧ください。LGBT（性の多様性）への取組としまして、レインボーカフェ3710を毎月開催するとともに、区民まつりへのブースの出展やアライアンス、支援者の方との交流会の開催、また、成人式での啓発も行ってまいりました。

続きまして、9ページを御覧ください。人権週間事業や人権に関するチラシ、情報誌等の掲出につきましては、以上のとおりでございます。

続きまして、11ページを御覧ください。戦略の2つ目、教育の課題でございます。戦略4-1、「子どもの学び」の応援でございますが、中段になりますが、目標として2つございます。1つ目としまして小学校の適正配置計画の策定を挙げておりましたが、後ほどご説明いたしますが、未策定としております。2つ目の授業以外の家庭学習の状況につきましては、平成29年度より約8割の改善を見ております。

12ページを御覧ください。具体的な取組としまして9つの項目を挙げ、おのおの右のほうに達成、未達成の別を列記しております。

続きまして、13ページを御覧ください。①分権型教育行政の効果的な推進の内容につきましては、目標を達成しております。

14ページを御覧ください。②学校の規模や配置の適正化など横断的な課題解決の取組についてでございますが、あわせて、別とじになっております、先ほど紹介しました港区の適正配置対象校と直近の児童数等の推移、こちらの資料もあわせて御覧ください。よろしいでしょうか。ちょっと別とじの資料のほうを御覧いただきたいのですが、すみません、スクリーンは出ておりませんが表中の太ゴシックで表記しております池島、八幡屋、港晴、築港の4小学校が適正配置対象校となっております。また、表の下の文章ですけど、米印の2つ目のセンテンスでございますが、「太字の4校が適正配置の対象校」となっておりますという表記に続きまして、こういった対象校の考え方が記載されております。また、上の表を御覧いただきたいのですが、表中の学級数、クラス数、こちらを御覧いただきますと、各校とも6学級、学年に1クラスずつとなっております。本来でしたら、こういう状況を見据えて適正配置に向けた取組を行うところでございますが、パワーポイントの資料の14ページを御覧いただきたいのですが、パワーポイントの資料、中段の目標未達成の原因分析の項になるのですが、ちょっと説明させていただきますと、港区におきましては社会増、社会増といえますと転入転出による増ですね、転入増といったもので、赤字で記載しておりますけど、長期的な児童の推移を慎重に見きわめることが必要であると、このように考えております。今後、令和7年に開催予定の大阪万博や、大阪IR基本構想の観光拠点ともなります舞洲へのアクセスとしても、今後も建設や就労関係者の利便性は非常に高いものがあると考えております。また一方、池島、八幡屋の市営住宅につきましては、現在、高層化に建てかえ中のものや今後の計画もございますので、こういったものも含めて検討した上で、適正化配置計画の策定を見送っているところでございます。

また、適正化とはちょっと違うのですが、今回、学校選択制につきましても資料をつけております。別とじの資料の3ページ、4ページを御覧いただきたいのですが、そちらのほうに通学区域、また通学区域外からの希望数につきまして、小学校、中学校の別にまとめております。また、次の5ページでは、アンケート結果から窺える港区の特徴を、ちょっと見にくいのですが、網かけと、また備考欄で表記させていただいております。特徴的なものの例示といたしまして、5ページの表の中段の下の項目ですが、「学校公開・説明会が良かつ

た」、これ中学校になるのですが、また「やりたい部活動があるから」といった項目、これも中学校ですね、それと、ちょっと悩ましいのですが、「児童生徒数、学級数が多い」、これ小中学校ともですが、こういった項目が全市平均と比べまして港区のポイントが高い特徴かなと考えております。

また、パワーポイント版に戻りますが、パワーポイント版の15ページから18ページには、学校選択制のアンケートの各項目の割合や、また、保護者の方のご意見を小学校、中学校、また、校区から、校区外からといった形で分けてカラーで表記しておりますので、あわせてご参考になさってください。

続きまして、パワーポイント版の19ページを御覧ください。③家庭学習の促進につきましては、学校の長期休業中における区民センター、また近隣センターでの自習室の開設を始めまして、港区独自の家庭学習の手引きやみなりん学習ドリルの配布、また、港エンパワメント塾、インターネット上の無料動画授業や教材リスト化等の取組を行ってまいりました。

続きまして、20ページを御覧ください。④地域の強みを活かした教育力向上につきましては掲載のとおりでございますが、1点だけ説明させていただきますと、一番下の項目になりますが、高校生向けの公民連携による科学実験教室とあります。これにつきましては、リバナスさんとの協働によりまして市岡高校でDNAの鑑定実験教室を開催してまいりました。

続きまして、22ページの⑤多文化共生教育スタートアップ事業につきましては、当初予定しておりました自治体国際化協会からの助成金が見込めなくなりまして、年度途中で別途予算組みして対応させていただきましたが、結果的に時間切れとなってしまいました。今年度は、実行可能な内容で、スケジュール感を持って取り組んでまいりたいと考えております。

続きまして、24ページ、25ページの⑥学校園における福祉的課題をかかえる児童生徒への支援、また、⑦発達障がいサポートにつきましては、記載のとおりでございます。

続きまして、26ページを御覧ください。⑧港区サードプレイス・不登校児童生徒支援についてでございますが、子どもの居場所の開設や教育相談の実施など、地域の方と連携した取組を進めておるところでございます。

続きまして、最後のページになりますが、29ページの⑨青少年の健全育成の推進の項です。青少年指導員、また青少年福祉委員の委嘱業務、青少年指導員による指導ルーム活動を始め、青少年育成推進会議による取組等も記載しております。また、区民モニターアンケートでは未達成となっておりますが、今後も継続して取り組んでまいりたいと、かように考えております。

パワーポイントの資料は以上ですが、続きましてチラシのほうを御覧いただきたいのですが、チラシの一番上についておりますクリーム色の大阪市こどもサポートネットを御覧ください。

この内容につきましては、昨年度、平成30年度からの取組になっておりまして、ちょっとすみません、ここには載っておりませんが、概要から説明させていただきますと、港区を含めて7区でモデル的に取り組んでいこうということになっておりまして、来年、令和2年度に残りの17区に展開していくと、24区全展開するといったスケジュールになっております。

こどもサポートネット、こういった仕組みかと申しますと、今、概念図がそのチラシのほうに書かれておりますが、一番上のほうになるのですが、学校、区役所、地域と、そういう矢印であったり絵が描かれていると思うのですが、子どもたちが日常生活するという場が小学校であり中学校であるということから、そういった学校をプラットフォームというか、そこでの先生方の気づきによって連携して、区役所とサポートをしていくといった取組でございます。

何をもとにするかと申しますと、スクリーニングシートというチェックシートを、学校の先生方によりまして、全校児童生徒、作っていただきます。例えば欠席であるとか、宿題であるとか、あと虫歯であるとか、そういったものも含めて大体20項目ぐらいあるんですが、こちらのほうでちょっと数が増えていくようなお子さんにつきましては福祉的な支援につないでいくということで、区役所のほうにこどもサポートネットの推進員、こちら非常勤でございます、また、こどもサポートネットに対応するSSW、スクールソーシャルワーカー、こちらのほうも配置しております。ちなみに推進員につきましては、これは教育委員会なりこども青少年局の配置基準としまして、中学校2校に対して1人ということで配置いただいておりますので、港区、中学校5校ございます、数でいきますと2.5ということになりますので、推進員については3名。また、各区スクールソーシャルワーカーについては1名配置して、こちらのほうでチームで学校さんと連携して、学校さんで気づきのあったお子さんをこちらのほうから福祉的な支援につないでいくと。

具体的にはどういったことをするのかと申しますと、ちょっと一例ですけど、例えばひとり親のお母さん、生活苦しい、ただ児童扶養手当、ひとり親手当、もらってらっしゃらないとか、いろんな保健福祉の制度でなかなか学校さんから説明しにくい部分について、区役所が入ってそういった支援、制度につないでいくといったものもございます。

ちなみに30年度の実績になるのですが、口頭で説明させていただきますと、スクリーニング会議、小学校10校、また中学校4校で開催させていただきました、対象となったケースの数が小学校さんのほうでは合計77ケース、中学校では対象38ケースといったところで、こちらのお子さん、また家庭のほうに対して支援を行ってきたということになっております。

また、こちらにつきまして、今後、地域の方との見守りであったりとか、また地域の社会資源との連携、具体には子ども食堂であったりとか、例えば青指さんの活動でソフトボールとかキックベースみたいな取組に子どもが参加できるような、ちょっとそういったつながりを持っていきたいと考えておりました、まだまだ、そういった連携であったり支援の方策、ちょっと探りながら進めているような状況でございます。

こどもサポートネットにつきましては以上でございます。

すみません、私からは以上でございます。ありがとうございました。

○薮井議長 ありがとうございます。今のが31年の取組も兼ねてのことでいいですか。

じゃ、ここから先は、それを受けての議論を我々のほうでさせていただきたいというふうに思っています。

どなたか、今の中でご意見ある方ありましたら、何でも構いません、挙手いただけたらマイク渡します。

じゃ、とりあえず、僕からやらせてもらいます。

みなりん学習ドリルの反応がどうだったのかなというのを、まずお聞きしたいです。

あと、プラス、無料動画授業、これの反応もこうだったというのを、報告書ベースじゃなくて実際どうだったか、担当しはった方がもう変わられているので、どこまで拾えているかちょっとわからないんですけども、ちょっとその辺を教えてくださいませんか。

○三上教育担当課長 すみません。反応というか、感触のご質問かと思うんですけど、学校さんには、家庭環境というか、学習環境の整備であったりとか、親御さんへの働きかけであったり、おおむね好評ではあるんですけど、申しわけございませんが、直接このドリルについてアンケートをとるとか、お子さんで学習の段階でこれが役立ったというようなアンケートのとり方になっておりませんので、今、ご指摘いただきましたので、そこはまた今後の検討課題とさせていただきます。申しわけございません。

○薮井議長 そうですね。やった取組をアンケートできっちり何かフィードバックするというのでなくてもいいような気はするんですけども、やりっ放しというふうに、もちろんそんなことはないとは思いますが、そうならないように何らかのリアクションで、それが次

つくるドリルの精度を、こうしましょうとかというふうにつながっていくと思うんで、そこはちょっと取組としてやっていただきたいなど。

○三上教育担当課長 そうですね。それと、すみません、今、私漏れておったんですけど、動画学習の取組、これも大阪市としては本当に先進的、画期的な内容にはなっているんですけど、ここも声が拾い切れておりませんので、ここも含めてまた対応させていただきたいと思います。

○薮井議長 ほか。

大野さん、どうぞ。

○大野委員 大野です。よろしくお願いします。

今、お話に上がっていたみなりンドリルを、今年の4月以降に入っていくいきに行っているんですけど、自主学習で子どもが持ってきているのを目にして、何かとても、あ、みなりンドリルやと思って、ちょっとうれしく思いました。子どもたち、普通にといい方も変ですけど、何かもう当たり前のように自主学習の中に取り入れている子どもがいたことはうれしかったかなと思います。

以上です。

○三上教育担当課長 どうもありがとうございます。

○薮井議長 ありがとうございます。

ほかにどなたか。

前川さん、どうぞ。

○前川委員 こんばんは、前川です。

港区の適正配置対象校と直近の児童数等の推移の資料を見ていて感じたことではあるんですけども、私は今、市岡東中学校のPTAの役員やっております、私の娘は今2年生の学年なんですけど、今2クラスなんです。あと数名入ったら3クラスという話になっております。私、たまたま授業参観で授業風景を体験させていただいたんですけども、中学生というのは結構体が大きくて、教室でぎゅうぎゅう詰めになって授業しておるんです。1人、2人とか増えて3クラスになるという境目が、私その点がちょっと理解できなくて。あんな窮屈なところで1年間授業させるのも非常にかわいそうやなというちょっと感想があったんです。それを踏まえて学校選択制の資料を見させていただいたんですけども、通学区域外からの希望者数で市岡中学校は65名という数字が出ているんです。市岡東中学校というのはいったら市岡中学校と隣接している学校でして、この65名というのが結構、うちの南市岡小学校

と波除小学校から選択する子が毎年多いです。原因を探っている資料を見ますと、いうたらクラブ活動の多さとかその辺があるんですけども、今年行った子で野球部に入りたいという子がいて、それで市岡選択して市岡行ったんですけども、実際聞いてみたら野球部に入らなくて、少年野球というか、ああいう硬式野球チームに入っているわけなんです。うちの教頭とちょっといろいろその辺の話、どうしたらうちの学校を選択してくれるかなというのをいろいろ今考えておまして、クラブ活動がやっぱり一番原因の一つかなというので、うち、今年から、同好会なんですけど、野球の同好会作ったんです。それ作ったんですけども、そこに入ってくれる子、まだ五、六人とかその辺の数なんです。何か他にいろいろ原因があるのかなというのは、これからちょっと私なりに探っていこうかなとは思っているんですけど、話し戻りますけど、1人、2人の入学の影響で1クラス減らしてぎゅうぎゅう詰めで1年間授業させるという環境が、ええのか悪いのかという判断が区ではできるのかどうかというのをお聞きしたいのがありまして、ちょっと質問させていただいたんですけども。

○三上教育担当課長 もうおっしゃるとおりでして、学級運営であったりとか学校運営につきましては教育委員会のほうでされている内容でございますので。

あと、今、委員がおっしゃられた適正化の、ちょっと前の話になるんですけど、選択制の中で隣接する学校を選ばれる、校区外から行かれるようなこと、また学校さんも頑張っているんですけど、学校の魅力づくりですね、先ほどのクラブ活動で同好会作られたという話も我々承っておりますし、学校さんのほうでは何とか頑張っていこうとしてそういった話もよく聞くんですけど、結果的にそういったクラス運営を余儀なくされてしまう、当然、我々行政としても何とかその辺を対応できないかということについては今考えているところでございます。具体には、例えば進学される際の、皆さんよく学校案内とか御覧になったりとか、あと学校の説明会とかいろいろ見られているんですけど、そういったところで行政として何かの関与できないかなというのを今、検討しております。すみません、今ぎゅうぎゅうのクラスの中で非常にしんどい思いしていただいているのかもしれませんが、運営につきましてはまた教育委員会のほうにも今日の話をしっかり伝えていきたいと考えております。

○前川委員 ありがとうございます。

○薮井議長 あれですかね、教室の大きさを全部一緒ですかね。

○加藤校長 一緒です。

○薮井議長 南市岡小学校、ずっと生徒数少なかったじゃないですか。もともと小さな……

○加藤校長 大体どこも同じぐらいの大きさ。

○藪井議長 そういうことはないんですね。今、生徒数が40名以上になったらたしかクラスが変わるんですよ。

○加藤校長 そうです。

○藪井議長 わかりました。ありがとうございます。

ほかに何かこれに関連してご意見あれば。

はい、どうぞ。

○近藤委員 青指の近藤です。まず確認したいんですけども、戦略1の中での⑨番で、青少年の健全育成の推進のところなんですけれども、ここで、30年度の目標のところの区民モニターアンケートというのは、これは子どもさんのアンケートですか、保護者のアンケートですか。ここ、推進の活動に参加したことがある。

○三上教育担当課長 まずそこからお答えさせていただいてよろしいですか。

○近藤委員 はい。

○三上教育担当課長 すみません。これは書いてあるとおり区民モニターアンケートとなっております、全年齢の対象のアンケートになるんです。ですから私も着任しまして、子育て層とかそういった方を対象にこういったアンケートができればいいんですけど、全体という形になっておりますので、20%以上を目標数値にしているんですけど1割程度と。

○近藤委員 課長、さっき説明のときに……

○三上教育担当課長 すみません、18歳以上。

○近藤委員 あ、18歳以上ですか。

○三上教育担当課長 はい。

○近藤委員 課長の最初の説明のときに青指活動を通じてスポーツ大会ということで例を挙げていただいたんですけども、この青少年の健全育成の活動においては、青指は指導ルームといいまして巡視活動を中心として青少年の非行防止の活動の一つ、一環としてやっているんですけども、2項目めの4つ、5つですか、青少年推進会議という部分については青指ではないんですけども、各中学校の推進委員会がやられている活動になるんですけども、私たち、市の会議なんかでも行くんですけども、正直港区は非常に団体が多いというのをすごく感じていて、他の区の人らもいろいろ被っている部分はあるんですけども、巡視活動という一つとっても、港区は青指やったら青指だけが活動しているという。他の区ですと保護司さんやら、当然民生さんやら主任児童委員さん、いろんな子どもに携わる役の人らがかかわってきて、こうである、こうでもないというふうな形を議論したりという形でや

っていて。市の今、活動の中で青少年、中学生が9時以降外に出ているというのを把握しようじゃないかということで、各区、24区の各校下で中学生の人数をカウントしているんです。これも、9時以降というのも昭和のやり方になっているんですよね。子どもたちも進化しています、昭和、平成、令和という形で。スマホが発達しているんで、9時過ぎるぐらいで集合しようかという形で10時、11時というふうに僕らが巡視終わった形がそういうふうに乗るとというのが事例で上がっていました。

そういった中で、私たちが巡視活動一つやるにしても、キャパといいますか限りがやっぱりあるんですよね。そしたら、そういうふうなことをどうしたらいいのかというように、一応市のほかの区会長さんらの意見を聞くと、曜日を分けたりとか、あるいは時間を分けたりとかということで、各団体、今申し上げたような団体さんたちが協力していただいているというふうなんで、その情報をいただいて青指活動の巡視の活動の報告という形を聞いています。

非常に港区というのが、私が感じたことですが、青指は青指、民生は民生さん、保護司は保護司さんというもう1つの団体が1年間こなすのに目いっぱいみたいな感じのことで、他の団体まで協力できるかというような感じの意見的なふうに分かるんですよね。それを僕、いろんな他の情報という意味で昨年度から、もちろん耳にされたかと思うんですけども、他の団体の横のつながりを持つということでも声かけさせていただいて、いろんな情報交換の場としてやっていっている最中になっています。

極端に言うと、推進委員会とかその辺になると学校単位になりますよね。誰に言ったかな、私、青少年指導員は学校評議委員会にも入れてくださいというふうにしたほうがいいんじゃないかなというところで、この2枚目の黄色のこどもサポートネットというところについても、学校の気づきというところの部分で、学校が感じていることとかそういうことをサポート委員さんに報告しますという話なんですよね、これは。そういった情報も、私たち任命を受けた立場なんでその守秘義務云々というのが当然あると思いますけれども、そういったところも私たちが携われてしかるべきんじゃないかなというふうに思ったりもするんでね、だからその辺を今後こういうところの活動にも周知という部分で捉えれば、ホームページとかそういったところにも上げるべきなんだと思うんですけども、青指もホームページ持っていていろんな活動の報告はやってはいますが、そこに見に行くという人たちが非常に少ないんだと思うんですけども、そこでフェイスブックとかそういったことでうちの青指の広報部会がやっているんで、そこにもリンクするようなことをしてもらえたらなという

希望もあります。ですので青少年推進会議のほうにつきましても、ちょっと青少年となると青指が一番前に来るという感じにはなるんですけども、いろんな活動もやっているというところもアピールもつとしないといけないのかなというところをちょっとお力添えもいただけたらなと思っております。

あともう一点、このサポートネットというところに対して、ソーシャルワーカーさんと民生主任児童委員さんとの大きな違い、何か同じように見えてしまうんですけども、その所属するあれが違おうと思うんですけども、学校で気づいたことでも、そのことに対して例えば貧困とかそういったところを気づいてどうするんですかね。

○三上教育担当課長　じゃ、すみません、一旦お答えさせていただきます。日ごろの活動、ありがとうございます。私も、こども青少年局で、青少年指導員さん、青少年福祉委員さんを担当するセクションにおりましたんで、久々に区のほうに戻ってまいりまして、やっぱり区よっての取組というか温度差というか、他の団体との連携ですね、当然24区統一ではございませんので、今、委員ご指摘のとおり、青指単体ではなかなかしんどい、昼お仕事持っていて、夜の会合であったり土・日の活動ですね、そういったところにいろんな団体さんが活動されておりますし、そういった横の連携というかつながりですね、こちらのほうは私も課長として参りましたんで、ちょっと積極的に働きかけて何とか一緒にやっっていけれへんかなと。いろんな団体で、そこの本来の仕事というか、役割もあるのかもしれないんですけど、やっぱり港区の子どもたちのために一緒にやっっていければなというのは当然区役所も一緒でございますので、そういった働きかけであったり、その音頭取りですか、そういったことでもまたちょっと汗かいていきたいなと考えております。

また、子どもさんも、昔やったら8時、9時なったら出たらあかんでと、補導されるでみたいなこともあったんですけど、スマホで連絡とり合って、またそのスマホで写真を撮って女の子のほうから男の子に送って、それがちょっと問題になっているというような昨今の事情もございますし、なかなかこういったところについてはもう新しい情報で対応していかなあかんのかなと考えております。

また、こどもサポートネットの取組なんですけど、こちらのほうも、学校からいただいた情報を推進員、区役所の職員が、スクールソーシャルワーカーもそうなんですけど、実際に入って行って、そのご家庭のお父さん、お母さん、またお子さんとお話をして福祉的な課題につながったりとか、また地域で見守っていったりとかいうことで、ちょっと守秘義務の問題がございますので、今実際にお話ししたり、活動の中では民生委員・児童委員さん、また

子どもの対応ということで主任児童委員さんに専らお願いしておるところなんですけど、地域の広がりとか連携ということでございましたら青少年指導員さんを含め地域のいろんな団体さん一緒になってやっていただくのが本当に本来の形とは思いますが、守秘義務とか情報の話ですね、局と整理しまして地域にもおろしていくようにちょっと対応していきたいと考えております。

○近藤委員 その守秘義務という部分についてなんですけども、誰々さんというところまでは私らも求めていないんですけども、今、市青指のほうでは見る巡視、巡視というのが見て回るというのがもう字の書いてごとくなんですけれども、今度聞く巡視をしましょうという話で今乗っているんですけれども、それはやっぱり子どもが虐待を受けている中で晩に泣いている声だとかそういったところというのをちょっと気にしなさいよというところで、他の区の意見なんで他の区は多分静かな区だとは思いますが、港区も非常に高速道路もすごくありますし、船の音も聞こえるときもありますしね、高層ビルもあるんで、そういったところでその声を聞けるのかというたらちょっと聞きにくい状態だと思うんで、ある程度この辺がというような感じでもいいので聞こえたよというのであれば、僕、区青指のほうでも皆さんに、区青指のメンバーには言うたんですけども、聞こえた段階で警察のほうに言いなさい、今、警察は間違いでもいいから連絡すると動きますよということを聞いているもので、一応そこを今11校下の校下代表のほうには一応通達といいますか、知らせた次第になるんですけれども、そういった形でそういう他の団体さんの持っている情報というのを知りたいなというところがありますね。

○三上教育担当課長 ありがとうございます。今、委員申されましたように、今、市長が重篤な虐待についてはこれをゼロにしていこうという取組をもう24区挙げて取り組んでおられます。当然、我々教育担当であったりとか保健福祉のほうでもそうでございますし、従前から泣き声通報とかいろいろありますけど、我々役所であったりなかなかその地域の情報というのはとりづらいものもございますので、やっぱりご近所とか地域から、例えば先ほどのこどもサポートネットもそうなんですけど、福祉的な課題だけでなく虐待が疑われるような課題、要保護児童対策協議会というのが別にあるんですけど、要対協がですね、ネグレクトであったり、今、委員申されたようにお父ちゃん、お母ちゃんが夫婦げんかして、その目の前に子どもがいたら面前DVということでの通報ももう頻繁に増えておりますし、やっぱり地域から、身近なところからいろんな目で子どもたちを守っていただければと考えておりますので、そういった取組今初めて聞かせていただきましたので、非常にありがたいな

と感じております。

○薮井議長 大丈夫ですか。ありがとうございます。

法改正まだなんですけど、家庭内の体罰も厳罰化されるというふうな今、方向になっていますし、地域の中で、家庭の状況もそうなんですけど、様々な人たちがいろんな立場でやっていることをしっかりとつないでいくということが重要なのかなというふうにももちろん思います。

先ほど近藤さんおっしゃられたように、学校協議会のほうへの参加というものをもうちょっと僕も進めたほうがいいのかというふうな思いはしています、それは民生委員も含めて。今の学校協議会、6月に研修1回されたというふうにお聞きしたんですけども、もっともっと強化をしていくべきなんじゃないのかなというふうな、ちょっと個人的な思いですけども、そういうふうに思っています、その中には当然青指の方々であったり、いろいろな地域の中での子どもに関係する活動されている方というのをしっかりと入っていただいて、そしてその中にプラス教育関係の専門的な知識を持つてはる方というのも、これは港区横刺しでいいと思うんです、市岡小学校だけ入れるとかじゃなくて全部に入ってもらおうという形で、例えば弁護士も入ってもらおうとかそういったことを僕も進めてもらいたいというのはちょっと思っているんで、それは、言いつ放しで申しわけないですけど、ちょっと検討していただきたいなと思っています。

どうぞ、意見あれば。

○三上教育担当課長 すみません、ご意見ありがとうございます。先ほど議長申されました学校協議会の委員の構成につきましては、また各学校さんのほうにも、様々な分野の方であったり団体の方であったりとかそういった構成をいただきたいというようなことは、また声としてお伝えさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

○薮井議長 せっかくなんで、小学校の先生来ていただいているんで、学校協議会のことで今、個人的な意見でも結構なんですけども、協議会でこうなったほうがいいかなというのと、今ある分の成果はこうなっていますというのがもしお教えいただけたらありがたいんですが。

○加藤校長 学校協議会につきましては始まってもう9年目ですかね、というふうになるのかと思うんですけれども、それぞれの学校によってありようが違っているというのが現状ではないかなというふうに思っております。

本校を例にとってみましたら、民生委員の方も入っていただいていますし青指の方も入っていただいております、子どもたちの現状等を、学校から出したことに対して子どもたちの地

域で見る様子も含めて忌憚のないご意見いただけておるかなというふうに思っております。あとは、学識経験者というのがなかなか見つけられなくて、結局本校でいうと校区の中学校の校長先生にお越しいただいているのと、それから校下の幼稚園の園長先生にお越しいただいているという状況ですね。

○薮井議長 それはやっぱり中学校の校長先生とか幼稚園の園長先生が入ることの多角的な視野が入るってことですか。

○加藤校長 そうですね。

○薮井議長 議論は活発になるんですかね。

○加藤校長 ええ。中学校の先生も意見出してくださいますし、幼稚園の先生も自分たちの子どもが上がっていく学校ということでご意見いただくことはございます。

○薮井議長 もうとにかく意見が活発に出て、相反する意見があったとしてもそれをみんなで共有しながら少しでも、正解がどこにあるかってちょっとわからないものだとは思いますが、そういうふうな対応していくしかないんですよ。

○加藤校長 喧々諤々の議論になるということはそんなにはないんですけども、皆さん前向きな意見を下さって、学校運営の参考にさせていただいておるという状況です。

○薮井議長 会議の中でそれで終息するんじゃなくて、その会議に参加した人たちが今度キーパーソンになって全体の活動にいっぱい展開していくというきっかけが一番なると思うんですよ。会議の成果というのはそこだと思うんで。青指の方々が参加することというのは、結局その参加された青指の方が地域に戻っているんな子どもとの連携というのを他のところと果たしていくということになると思うんで、それはもう進めていただきたいなというふうに思います。

○加藤校長 ありがとうございます。

○薮井議長 ほかにご意見。

はい。

○法連委員 すみません、子ども会の法連と申します。

ちょっと先ほどもお話があったように学校選択制保護者アンケート、ここでやりたい部活動があるからというところを見ても、非常に港区、この割合というのが非常に断トツなんかなというふうに思ったりしているんですね。先日も我々のほう、港スポーツセンターでドッジボール大会というのをやらさせていただいて、これ春と秋やっているんですけども、少し少子化の影響を受けているというものの大々的にやらさせていただいているとい

うところ、あとソフトボールであるとかキックベースボールの大会なんかも年に3回やらせていただいている、そういう意味では港区の1つの強みにしてもいいのかなと思うんですね。非常にスポーツが盛んでありますよというところを、大阪市の中でも有数でありますというようなところ、勉強も大切なんですけども、そういったところも強みにしていただければなど。

あと、そのときに思うのは、大会運営とかでやっていただいている指導者さんであるとか保護者の方、本当に多数の方にご参加いただいているんですね。ですので、先ほど近藤さんからありましたように区民モニターのアンケートで非常にパーセンテージが低いかなと思っではおるんですけど、実際のところそうじゃないと思うんですね。もっともっとみんなやっていただいているというところだろうと思いますので、ここのアンケートのとり方というところをちょっと考えていただいたら簡単にそこは数字が上がるのかなと思ったりするんですね。ですので、そういうスポーツはスポーツで、だから逆に言うたら中学校でしっかり受け皿をつくってほしいかなと。クラブ活動をとってみても。僕は学生るとき陸上やっていたんですけど、陸上なんてほとんど走るだけなんでどこの学校でもあるやろうと思っていたら、いや、実は市岡中学校はありませんとかそういうふうなん聞いたりして「え」という感じなんですね。ですので全部が全部やれというわけじゃないんですけども、港区全体で何かもうちょっと、スポーツという事柄だけでいうと何かもうちょっと特色を作ってもらったらおもしろいのかなというふうに思います。

それと、戦略3-5、多様性を尊重しあう共生社会づくりの中で、状況としてというところで一人一人の人権が尊重されているまちであるという、答えた区民の割合というのが30.7%という数字なんですけど、ということはそうじゃないという人がいらっしゃるわけですよ、7割ぐらいが。その7割の方って何が不満なんですかね。というところがもし聞き取りとかできているのであればちょっと教えていただきたい。その理由って何なのかなど。非常にちょっと一人一人が感じ方というのがいろいろあるので難しいとは思いますが、逆に言うたら何が足りひんのかなと思ったりするんですよ。

裏の4枚目を見てみたら、人権問題の関心や意識を高める上で役立ったと思う人の割合が81.5%ありますというふうになっているんですね。いや、皆さんだから興味を持っていて意識を高めていただいているけど現状には不満ですという、その不満って何なんかなと、何が港区に足りないのかなと。だからそれが結局子どもの教育とか福祉とかそういったところにも全てつながってくるんじゃないのかなと思ったりするんですけど、どうですかね。

○三上教育担当課長 どうもご意見ありがとうございます。

○薮井議長 これ、区長でいいですか。区長から。

○筋原区長 何で人権の多様性の尊重のところが7割そう思っていらっしゃらないかと、これ非常に難しいですね、思っていないということで。これはもうイメージは大きいとは思いますが。3月も残念ながら重大な児童虐待も発生をしまして、そういうのがばんと報道で出たらそれだけで子どもの人権尊重されているとはお感じにならないですよ。そういうことであるとか、あるいは、これは自分の感触でいうと、メディアも含めてまちのこういうことに取り組むんやという熱量というか、機運を挙げていくというのはすごく大事なことやと思うんです。ですのでそれはやっぱりテレビとか新聞の力は大きくなって。LGBTなんかはかなり港区は僕が来る前から先進的な取組をしていますし、そういう部分で出ればそういう取組をしているんだなということでパーセンテージも上がっていくのかなというふうに思いますんですけどね。まちの気風といいますか、風土で、港区は非常に、これはもう実感で港区というのは地域も人もすごく力があります、24区でも本当にトップクラスの力がまだ残っていると思っていますので、そういうことで、例えば学校選択制なんかでいいにしても、何で校区外の学校を選択したかという理由なんかでも、生徒の数が多いからとか、あるいはPTA役員を受けたくなかったからとかあるわけなんです。これは学校選択制の元々の本来始めた趣旨と違う理由なんです。これは親御さんの、特にPTAなんかでいうと親御さんの理由なんでね。学校選択制はそうじゃないわけですよ。やっぱり子どもたちのためにということであるのでそれは違う。市岡中学に非常に集中して市岡東中学校は減っているという本当に大きい問題で。クラブ活動も頑張って野球も同好会ですけど始めていただいて、やっぱり僕らからしたらそれももっとPRしたいですし、あとは安直に、別に学校選択制、これで選ばないといけないという、これで選んだらあかんという理由ないんですけど、例えば安直にするものではないですよという、これはまちの気風として、そういう常識としてそういうのを根づかせていきたいなというのはすごく、それをどういう形でかというのはやっぱりいろいろな、学校協議会さんもその場かもしれませんし、いろいろな活動の場でもそういう価値観、まちの価値観ですよ、そういうのを正しく発信するというか、大事じゃないかなというふうに思います。

○法連委員 区長、わざわざありがとうございます。そうですね、僕もそうなんですけど、港区区外からマンションがあつてマンションに入ったという人間なんですけど。けどこの港区って結構、もともと港区で生まれて港区で育って、また港区で結婚して住まれてという

方も結構多いと思うんですよね。だから、そういった新しい方とずっと住まれていた方とでいろいろ文化の違いとか考え方の違いとかあるかもしれないんですけど、それをうまく融合させていい港区をつくっていただければと思いますので、よろしくお願いします。

○加藤校長 議長、すみません。

○薮井議長 はい、どうぞ。

○加藤校長 クラブ活動の件なんですけれども、先ほど前川委員がおっしゃったように学級減になってしまった、学級減になったら教員の定数も減になるんですね。また新たなクラブを作れないと負の連鎖に入ってしまったということもご理解いただけたらありがたいなというふうに思います。市岡東中学校、校長先生非常に頑張られて何とか野球部作らなあかんというので同好会作って、来年度はぜひというふうに頑張ってくださいているんですけども、とにかく指導者の数がなくてクラブ活動もできないと。外部の指導者入れたらいいやないかというのはこの頃言われていますけども、なかなかそういう方も見つからないという現状もご理解いただければなというふうに思います。

○法連委員 だからそこで特徴づくりでやってくれたらええかなと。各中学校で特徴づくりをしてくれたらいいのかなと思うんですね。だからここは野球頑張ってやります、ここはラグビー頑張ってやりますみたいなそんなイメージなんですけどもね。教員が少ないというところ、そこもわかりますので。けど、しっかり受け皿となる学校があって、そこに絶対入れると今限れてるわけじゃないじゃないですか。そうやって、あかんとは思いませんけど、そういうクラブチーム、他のところに入る、これも選択肢の一つやろうと思うんですけど、まず中学校でしっかり、今5校あってその5校の中で受け皿ができるのかな、どうなのかなというところを考えるとありがたいのかなというふうに思ったりするんですね。いや、ここやりたいねんと思ったけど結局できませんねんといったら、やっぱりちょっとおもしろくないのかなと。だから結局行きたいと思った学校に行けなくてみたいな、そんな感じじゃないですか。だからその行けなかった学校で受け皿となるこういうものがありますというものがあれば。だからみんなたまはあると思うんですよ。今、外国の子どもも大学生まで行っちゃっているんで今の中学校状況ってわかりませんが、あるとは思いますが、けど、今逆に選択制になったが故にこのクラブがあるからやりたいというのがあると思うんですね。だからそこに行けなかった場合この中学校に行ったら、あ、こういうおもしろいクラブありますよねというようなところですね。それがだからスポーツだけじゃなくてもいいと思っっているんですね。文化系でもいいと思うんですね。だからそれはどういうクラブの内容がいい

のかというのはもう本当にいろいろあると思うんですね。だから学校の先生方がいろいろちよっと知恵絞っていただければいいのかなと、他人事みたいなこと言っているんですけど、ぜひともちよっとお願いします。

○藪井議長 他に今までの議論の中でありましたら。

はい、どうぞ。

○村田委員 村田です。よろしくお願いします。

パワーポイント資料の27ページの上から3つ目、青少年育成推進会議による講演会の実施とありますけれども、もしお差し支えなければ、どこの学校で内容はこういったものか教えていただきたいです。

○三上教育担当課長 すみません。全てではないんですけど、去年、平成30年7月3日、築港小学校の多目的室で子どもについての講演会と懇談会と、内容につきましては「いっしょにご飯！食べナイト？」というテーマで、NPOの西淀川子どもセンター代表の西川様にお越しいただきまして講演をやっていただいております。

それからまた、7月10日には港中学校で……。すみません、これは青少年育成推進会ですね。

ちよっとまたお調べしまして取りまとめて全体会議までにまとめておきます。申しわけありません。

○村田委員 他地域から参加はできるのでしょうか、この講演会。

○大野委員 ごめんなさい、質問からもう一度お願いします。

○村田委員 質問から。2回目の。

○大野委員 26ページ。

○村田委員 27ページの上から3つ目の青少年育成推進会議による講演会の実施、この内容を教えていただきたかったんですけど。参加できるなら他地域からでも内容によっては参加できるのかなと思ひまして。

○三上教育担当課長 キャパの問題はあると思うんですけど、開かれた講演であれば当然外部から来ていただいても差し支えないかと思ひますし、我々区役所の職員なんかもお伺いしたりしていますので。ただ、狭い部屋であったりとかいろいろ制約もあるかと思ひますので、もしあらかじめ何かそういうテーマがわかって行きたいんだということがあれば、事前にわかれば地域に諮って参加可能かどうかといったこともお伝えできるかもしれないですね。ちよっとまたそこは課題としてさせていただきます。

○村田委員 はい。情報は学校のホームページしかないですよ。小まめに見るといことですかね。

○三上教育担当課長 そうですね。ちょっと事前にこのテーマで取りまとめて一斉に発信するというのがなかなか……

○村田委員 ないですよ。

○三上教育担当課長 ええ。

○薮井議長 これ、そもそも青少年育成推進会議というのはどういう組織なんですか。

○三上教育担当課長 中学校の校下単位で推進会議を開いて、いろんな団体さんが入って青少年の健全育成ということで取り組んでおられますけど、5中学校下全てが同じような取り組みされているかといいますと、そこはやっぱりちょっと地域で温度差もございますので、積極的というか、いろいろ取り組んではるところもありますし、普通にというところもございますし、いろいろでございます。

○薮井議長 名称としては市岡中学校青少年育成推進会議とか、そういう……

○三上教育担当課長 そういうことです、中学校区です。

○薮井議長 すみません。

○村田委員 すみません、もう一ついいですか。

○薮井議長 はい、どうぞ。

○村田委員 私、池島地域に住んでいるんですけども、市営住宅の工事が今どんどん進んでいますけれども、工事をする、壊す建物の方が、住んでいる方が新しいところに移ってという順番に今引っ越しされていますよね。新しく他地域の方を受け入れるというのはないんですかね。ちょっと前に聞いたのは、今はまだ全然受け付けられないのを聞いたんですけども。

○筋原区長 基本的に新しくできてそこへ住みかえなんですけども、聞いていますのは、最後相当の土地ができるんですよ。それは売却すると思うので。あそこは駅からも近いんで、そしたらタワーマンション建つ可能性が高いんで、それがあつたので再編のほうは、あとは大阪万博とIRですね、あれが工事本格化をして、IRの中でも雇用だけでも何万人という推測も出ていますし、じゃどこへ住むのかというと、夢洲自体はなかなか住むところがないので、そうするとやっぱり港区というのが濃厚なわけですよ。そこら辺になると、非常に人口動態でいうと増になる可能性が非常に高いと私は思っていますので、ですのでその動向を見るまでは学校の再編というのはちょっと様子を見ながらやっておこうと思っているという。

○村田委員 ありがとうございます。

○薮井議長 ちょっとそれに関連してなんですけど、学校選択制の資料の中で村田さんところの池島小学校の減り方というのがちょっと注目点なのかなというのと、あと、三先に13名区域外からの希望者が来ている。もちろんこれ池島13名というわけじゃないとは思いますが、あの近辺の構成を考えたらそういうことも想像できるのかなと。学校選択制が導入されて随分な日数がたっているわけなんですけど、その中でこういった地域の中でそれによるメリットがある地域とない地域、もしくはデメリットになってしまっているという地域というのが出てきつつあるのかなと思っているんです。それについてだから何かそこが悪いとかいう話じゃなくて、僕は逆にどうすれば自分たちの学校というのを魅力的、三先はいろんな取組されているというのは僕お聞きしていますし、そういったものをしっかりと共有しながら進めていく必要があるんじゃないかなと思っているんです。

三先の大野さん。三先でやっていることというのが必ずしもそれが直結しているとは思わないんですけど、こういうことやっています、それがもし参考になればというのでちょっと言っていた方がいいですか。

○大野委員 そうですね。地域的には今やっと、先ほど単体の団体の動きがという話があったかと思うんですけど、最近やっと地活として地域全体、どこそこの団体やからとかというんじゃないで、地域を挙げて催し物をするということが少しずつ定着してきているような気はします。先日はちょっと高齢者の方、もちろん子どもも来られるようにはなっているんですけど、高齢者の方がお買い物に行きにくいという声があって、お野菜が憩の家で買えるよみたいなマルシェをやろうみたいな感じで、ちょうどモーニングの時間帯だったので、いつもはカレーライスを作るんですけど、モーニングの時間帯だったのでホットドッグセットと一緒に作って、野菜を販売したりバザーを作ったりをしながら、おじいちゃん、おばあちゃんに連れられて子どもが来ているみたいな光景は見させていただきました。

あと、学校の運動場を使って催し物というか、P T Aさんが頑張って星を見る会なんかはかなりの年数かけて続いていますし、あと、子ども会さんなんか中心となってハロウィンという子ども向けの行事も行っていたりするので、確かに行事を通して見たときに三先の小学校の子だけじゃないよなというのはずっと感じていたんです、自分がP T Aの時から。私たちがP T Aで学校の行事としてやっていた時も、友達が来たいから連れて来たらあかんのという声とかもたくさんあったので、三先小学校児童じゃない子どもたちも受け入れてきたんです、餅つき大会を始め。子どもさんは三先の子もよその校区の子も一応、区別をするの

もどうかということで長きにわたって無償で催し物をしてきたので、こういう資料が出ていたので子どもに何でうちの小学校来てんのというて聞いたら、幼稚園や保育所の時からお友達が三先地区に住んでいて餅つきに来てんとか、ふれあい踊りに遊びに来てんとかいって、そのままこの学校に友達と一緒に上がったみたいな声は聞いたので、少しずつかなとは思いますが、ちょっとずつやってきた催し物の成果も上がっているのかなとは思いますが。学校の先生に聞いたら絶対いいことしか言わないので、それはきっとどこの学校が悪いとかということはないと思うので、はい、そこぐらいですかね。

○薮井議長 池島も随分前から池島まつりやってはりますし、取組もちろんやっていないわけではないです。あとプラス、あの地域というのが入り組んでいて、池島に住んでいて三先のほうが近い子とか逆の子もおったりとかというちょっと複雑な、八幡屋も含めてね、あの3つの校区、港晴も入れたら4つなんですけど、ちょっと複雑な状態なんで、その辺の線引きというのもしかしたら一旦考え直さなあかんのかなというのももちろんあるとは思いますが、そういうものも共有しながら、今やっている取組だけでいいんだじゃなくて、新たに何かいいものどんどん取り入れていく、盗んでいくというようなことも共有していただいたほうがいいのかというのを、ちょっと僕、個人的には思っているんです。

○大野委員 いいですか。

○薮井議長 はい。

○大野委員 すみません。今先ほどのお話にも、港区ってすごく親子で、親世代からずっと住んでいるという方たちが多いかと思うんですけど、子どもたちの親御さんももともこの地域に住んでいたという話もよく聞くんですけど、私が子どもの頃って池島の1丁目、2丁目って港南中学校校区だったんです。もともと三先小学校校区だったんです。3丁目以降が八幡屋小学校。池島小学校がなかったの。池島に住んでいてお父さん三先小学校やってんという子どもさんとかも多いので、もしかしたら地元に住んでいるが故に僕は、私は三先小学校やったから子どもも、今、選択性もあるし。実際1丁目、2丁目あたりって、私も池島にも住んでいたことがあるんですけど、本当、三先小学校、目と鼻の先にあるんです。なので、そういう線引きというか土地柄というかもやっぱり大いに関係しているところもあるような気はしないでもないです。

○薮井議長 原因分析というのももちろん大切なんですけど、適正化を何とか乗り切るというのも、タワーマンション、先ほど申されていましたが、やっぱり10年ぐらいかかっちゃうと思うんですよね、児童数がぼんと増える。もちろん10年というのは行政のタームからし

たらあつという間ですし、1回売却してしまったらもう取り返せない、それこそ堀江の状態に、西区の堀江の現状見た時に、ああなったら具合悪いなという思いというのは当然我々も持っているんですけど、とはいえどうやって今の子どもたちが多クラス、できるだけ多い選択肢を、友達の選択権を増やした状況で過ごしてもらえるのかということもちょっとあわせて、近々の話じゃないですけど考えていただきたいなと思っています。これはもう返事なしで大丈夫です。

ほかご質問。

はい、藪本さん。

○藪本委員 藪本です。よろしくお願いします。

26ページの不登校児童生徒支援というところがあるんですけども、私も、こども食堂、地域で手伝わせていただいている中でやっぱり不登校の児童がいてるんですけども、不登校の児童の数であったりとか、例えばさっき近藤委員のほうから時代が変わってきている中で9時以降、出歩く方もいると思うんですけど出歩かずにゲームとかでみんなで集合してというような、時代がいろいろ変わってきていると思うんですね。そこでやっぱり耳にいろいろ、いじめられているとかそういうことも聞くんですけども、いじめられている方の相談件数だったり人数というのを区役所のほうでは把握されているのかなというのをちょっと疑問に思いましたんで、教えていただきたいんですけども。

○三上教育担当課長 すみません。区役所というよりも教育委員会の指導部の取組になっていますので、ちょっと我々区役所としては数は集約できていないんです。

○藪本委員 何かその、区長も先ほど言っていたいただきました、港区って結構熱量高い人がたくさんいてると思うんですけども、実際自分も子どもが小学校1年生になりまして、ずっと思っているんですけど、僕らの時代よりももっと子どもらってほんまに飯食べていけるんかなという、本当に能力がなければ食べていけないとかそういうこともあると思うんですね。だから負のことで言えばいじめ・不登校とあるんですけども、港区としては子どもたちにもっと夢を持ってもらったり職業をもっと考えられるような、体験できるような場所をもっと……いろいろあるんです、WORKS探検団とか職業体験っていっぱいあるんですけども、ゲームやりまくっていじめとかそんなんしている時間ないと思うんですね。本当に仕事をちゃんと、いや、ほんまになくなっていくような仕事ってたくさんあると思うんですよ。実際自分の仕事もどうなのかなと思う時もやっぱりありますので、やっぱり子どものことを思うとそういう将来のことをもっと見させてあげられるような何か施策とかなんかできない

のかなと思うんですけど、そういうのはどうでしょうか。

○筋原区長 それはもうまさに、去年も皆さんの物心両面のご支援で物づくりの格好よさ、魅力を伝えるという子ども教育プログラムも実際にやりましたですね。築港小学校の6年生の子どもたちに日常生活をよくするアイデアをもらって、子どもたちが出したのが、自分の遊ぶ個室が、小っちゃくても個室が欲しいというんで、押し入れに入る秘密基地というのを作って、それが実際地震の時は上落ちてきてもそこへ逃げ込んだら大丈夫という秘密基地シェルターというのと、それと、女の子が野球のバットでボールを打つのが難しいというんで、手に何か細長いラケットみたいなやつ、ハンドバットという、作って、そんでそれを、いうたら新しい球技を6年生が作ったわけなんですけど、それを実際にガレージミナトで形にして、それを今年製品化して実際に売り出すという、販売するということで、これはもう日経新聞にも大きく取り上げていただきましたんですけども、そういうことで子どもたちに自分たちの、子どもでもアイデアがあればちゃんと製品化できると、起業のシミュレーションというか、いうことで。

今おっしゃったように、やっぱりこれから子どもたちですね、大阪万博もありますし、社会の課題をどう解決していくかという、そういう視点で仕事選んでほしいなどはすごく思いますし、私のこれは持論で、今日のテーマじゃない、活性化のテーマにはなってくるんですけども、今まではお客さんのニーズに対応できてきた、早くきめ細かく対応できてきた企業が伸びていったんですけども、もうそれ無理やと思うんです。お客さんのニーズというのがもう変わり過ぎてもうわからないんですよ。ですので、これからは社会課題を解決できる方向に行く、変わり続けることのできる企業や個人がよくなっていくというか、生き残っていくということにきつとなると思ってますので、そういう感覚を子どもたちにもぜひ持ってほしいなと思って。ですので、それがゆえにリバネスの大阪本社も誘致もしましたし、一緒になって小学校、中学校、高校それぞれでそういう取組も、先日、波除小学校でも追手門大学に来ていただいてロボットのプログラミングをしてもらったんですけども、そういうのをどんどんどんどんやっていく必要がありますし、それは港区としての大きな施策やと思っていますね。

○三上教育担当課長 すみません、ちょっと補足させていただいてもよろしいですか。今、区長、お話あったんですけど、パワーポイント資料の19ページになるんですけど、ちょっと取組は違うかもしれないんですけど、項目の3つ目の港エンパワメント塾であったりとか、また下のネット上の無料動画、ここに教科外の学習など、将来に向けてのそういった意識づ

くり、そういったコンテンツなども含めて集約しておりますので、またご参考にしていただければと思います。

○薮井議長 ありがとうございます。

熊本さん。

○熊本委員 すみません、公募の熊本です。

子どもの学びの応援について2点ほどあります。まず、家庭学習の促進というのが19ページにあるんですけども、家庭学習するに当たっていろんな研究があったと思うんですけども、子どもの学習において周りに本があるという環境は非常に大事だということを聞いたことがあるんですが、港区、今、大型の書店がなくなりまして個人的にもすごく不便しているんですが、本当いうと大型書店を誘致していただければなとは思っているんですけど、なかなか難しいのかなと今のご時世では思うんですけども、図書館が今度もうすぐ新しくなるということですので、図書館を子どもたちが、また大人も含めてですけども、使いやすい形で何か計画があるのかどうか。今、全国的にいろんな図書館があつてニュースにもなっているかなとは思うんですけども、どんな施策というか計画を考えておられるのかなというのが1つと、もう一点、サードプレイスというのが、港区で頑張っておられるんですが、家庭、学校、サードプレイスという形で3つの居場所というところかと思うんですが、学校の中にリラックスできる場所、ほっこりできる場所というのを設けてられるところもあるとは聞いたことがあります。例えば学校内に畳の部屋を作ってということをする、そこに子どもが割と集まってリラックスして顔が非常にやわらかくなってということを知ったこともあります。保健室登校なんかもそれに近いのかもしれないんですけども、学校の今の教室の配置だけではなくてちょっと工夫して、人の配置も要るのかもしれないけれども、子どもたちがちょっと学校内でリラックスできる場所というのを作れるのかどうかというのについて、その2点についてお伺いできればと思います。

○筋原区長 ありがとうございます。本屋は私も全く同じ思いを持っていましてですね。本屋というのは文化を発信する場所でもあり、文化に触れる意味では非常にハードルが低い行きやすい場所でもありますし、またそこがコミュニティーの場でもあり、最近ではただ本を売るだけじゃなくて、そこでイベントをやったりカフェがあつたりとか、あるいはグッズを売っていたりとかいろんな展開ができる非常におもしろい場所やと思うので、ぜひ港区でも新しい本屋をということで実際に、具体的に言うたら差し障りがあるんですけど、大阪でナンバーワンのそういう新しい取組をずっとしていた書店がありまして、そこを誘致しようと

していました。実際にほぼほぼ話がまとまるどころまでも行ったんですけども、ただこれは根本的な問題で、本屋さんというのは自分だけでは本を売れないんですよ。取り次ぎ会社というのがあって、その取り次ぎ会社が本を卸してくれないと本を売れないんですね。その取り次ぎ会社さんは、中心部の梅田とか難波とか売れる場所にある本屋にしか本を回してくれないんですよ。ほんで、その想定していた場所では結局取り次ぎ会社さんが本を回せませんと言われて、ほんで泣く泣く断念をした。ただ、まだ諦めずに、とあるところにとある本屋を誘致しようというのは今一生懸命やってはおります。ぽつぽつありますよね、オリオン書房さんとか非常に頑張っておられる書店があって、こういうところは本当応援したいですけどね。本屋さんというのは本当にまちの文化を支えるコンテンツやと思っけておまして、おっしゃるとおり何とかしたいなというふうに強く思っています。

それで図書館ですね。図書館も実際にそれは呼ぼうとしたところがアイデアがあったんですよ。図書館とコラボしたらこんなおもしろいことができるところがあったんでやろうとはしていたんですけど、それはこれからも、図書館、教育委員会のいろいろな制約もあるとは思いますが、そこはいろいろとチャレンジしたいなと思います。

それからあとサードプレイスなんですけど、これもサードプレイスは、大野委員、力入れてやっていただいております。近隣センターでやっていただいております。また学校の中でも最近市岡中学さんなんかではとばカルチャーってやっておられますね、これはNPOさんがやっておられますけど。ただ、どこでするにしても地域の皆さんのご支援がなかったらやっぱり無理なんですよ。これはNPOがやったにしたってNPOだけじゃ無理なんですよ。やっぱり地域の方が共感できる内容で、地域の方が一緒にやろうという内容にできるかどうかは鍵やと思っけておまして、それは場所はいろいろあっていいと思います。学校の中というのも、これは対象もちょっと変わってきますよね、学校の中でしたら、まさに中学校でちょっと不登校ぎみの子は直接的に行けるので。聞きますと、例えば心配な児童虐待の懸念なんかもやっぱりそういう、市岡中学校は先生が一切行かないと聞いているんですよ、そうすると子どもらもしゃべりやすいんでいろんな情報も聞かせてもらえるというのもあります。近隣センターは近隣センターでまた違う子どもたちが来てくれて地域の皆さんとやっていただいているということなんで、だからいろんな場所でいろんなやり方があるやろうなとは思っけておます。それで今おっしゃっていただいた畳の部屋なんかすごいおもしろいなと思いますね。何かそれ作るのも含めてDIYとかで子どもらと作るとか、そんなんできたらおもしろいかなというふうにも思っけておますし。ですのでやっぱり鍵は地域の皆様のご協力をいただける、共

感をいただける内容が作れるかなというのが大事で、それはこれからも広めていきたいなとすごい思っています。

○熊本委員 ありがとうございます。書店については残念な面と頑張っしてほしいなというところ、期待しております。多分ああいう本屋さん、新聞なんかにも出ていた本屋さんなのかなと思うんですけども、これからも近くにあってくると個人的にもうれしいんで、待っております。

図書館についても、私は余り図書館使っていないんでここでやいやい言うのもどうなのかなとは思いますが、使いやすい楽しい子どもたちが入りやすい図書館というのを期待しているんで、よろしく願いいたします。

学校の居場所についても地域と協働で、ここでも話し合いながらいろんなアイデア出していただければなと思うんで、一緒にやっていきたいと思います。ありがとうございます。

○薮井議長 ほかにご意見。

はい、どうぞ。

○近藤委員 先ほどの企業誘致の話もそうなんですけども、今、藪本さんの子どもたちへの夢の話もそうなんですけども、今、熊本さんの話もそうなんですけども、港区って企業誘致とか土地とか利用の仕方がすごくうまくいっていないんじゃないかなというところが僕は思うんですけども、1つ事例に挙げてみますと、東淀川区さんには神戸屋というパン屋さんがあると思うんですよ、ほんで大学は成蹊大学があって、そこで青指がかんできているというんで何をやるんかという、子どもたちにケーキとかを作らせるということなんですけども、神戸屋、メーカーのほうから見る観点というのは市場動向、どういうふうなものを子どもたちが作るのか、どういうようなものを食べたいのかという観点からと、大学のほうは栄養学の観点で、どういうふうな、例えば甘いだとか辛いだとかそういうふうなんのニーズが多いのかとかという観点があって、青指はただそれを食べて優劣をつけるという感じだけなんですけれども、そこには当然青指の交付金から出る、事業資金から出るお金が出ているんです。そういった形で港区というとそういう大きな企業が何かやろうかというのもないですし、学校という部分でも大学とかは当然ないんですけども、そういった産学民ですか、そういった融合という部分の事業体の事業というのがないのが、子どもたちの視野を狭めていっているところもあるのかなというところもあるのが1つと、前にも僕、意見言うたかもわかんないですけど、港区の中で弁天だけがグラウンドがないという。僕らの小さい時代というのはそういう広場で野球やったりというので野球選手を目指そうかなというようなとこ

ろがあって、他の地域あるから他の地域の子ら野球できて野球選手なるんかというたらちょっとわからないんですけれども、そういう子どもの活躍する場がなくなっていっているというのを思っているんですよ。僕らの時代といたら今の、オークタワーですか、そのところに弁天グラウンドという大きなグラウンドがあって、小さいところでは少年野球とかがいっぱい活躍していたというのがあって、そこが上がった子らが中学行って高校行って高校野球行ってプロに行ってというところも私の目でも見ているんですけれども、そういったその場が非常にないというのを僕感じているんですけれども、例えば八幡屋に大阪プールがというのに対しても、あれってオフィシャルのコースの何かあれですね、国際基準の、そういったところも何かスケート場というののもったいないなというのもありますし、結構スイミングのスクールなんかもうすごい盛んで、住之江のほう行ったらイトマンとかがあったり、こっちでしたらみなとセントラルですか、そういったところもあるんで、中学校とかのクラブですとそこで水泳部がやっているというので冬場は活動できないのかなというところもあって、非常に子どもたちの環境という部分がすごい狭まっていっているというのが非常に実感しているんですけども、そういった将来の子どもたちの将来像という部分についてはどんなふうな計画というか、考えなんでしょうか。

○筋原区長 まちが成り立っていく土台というのは私は産業やと思っています。私はまちづくりに文化のないまちづくりというのは夢がないとは思いますが、一方で産業がないまちづくりというのはただの夢物語だと思っていますので、やっぱり産業がベースやと思っていますね。ですので、ただ委員がおっしゃった産業の部分というのはまちの成り立ちの文脈というのがありまして、それを無視しては絶対にうまいこといかないわけなんです。じゃ港区は何かというと、1つは町工場が結構集積をしています。これは湾岸エリア全般がそうなんですけど。大正もそうでありまして、西区、港区、みんなそうですね。ですので町工場は、実は今物づくりはだめみたいに言われていますけど、日本のね、全然そんなことはなくて非常に、こんな厳しい時代でも生き残っている町工場、すごく高い技術力をお持ちです。ただ下請、孫請の時代が長かったので新しいアイデアが出てこないという悩みをお持ちで、一方でベンチャーや大学の研究者というのはアイデアはありますが形にすることができないわけですね。この2つをくっつけて新しい製品、新しい産業をつくり出すという場でガレージミナトというのを波除、成光精密さんで去年の4月にオープンをしまして、今、全世界の海底探査をするプロジェクトに日本財団から5,000万もらってやったりですね。この間からNHKや日経新聞でも大きく取り上げられているんですけど、野球のティーバッティングの新し

い新製品を生み出したりというのでやっています。そういう取組があり、またずっと休眠状態であった港産業会の青年部も彼らが一緒になって、あ、藪本さんも入ってくれていますね、イノベーションポート200という青年部を去年立ち上げてくれて、物すごい熱量ですよ。多分24区でも断トツで一番の熱量を持っている青年部ですね。その皆さんが子どもたちのために教育プログラムということで今年も継続してやるんですけども、そういうのをすごい熱い思いで伝えていってくれています。また大手企業も、海運、港運という大手企業は港区が多いわけですけども、だからそれがまずは町工場のほうから社会課題の解決の方向に動くというそんな実績を目に見える形で見える化して、それでもっと大手のところもそういう方向に火がついてくれたらなというのは思っていますけども、そういう動きを進めていくということですよ。

グラウンドとか土地の問題というのは、これはなかなかちょっと難しいところがありますね。土地を生み出すというのはなかなか難しいところがあるので。ただ、子どもたちが何に興味を持って反応してパッションが生まれるのかというのは、これは僕らの全く違うところでそういうパッションに火がつくかもしれませんので、だからそういう機会というのはもうありとあらゆる機会を総動員して子どもたちのパッションに火をつけるというそういう機会は増やしていきたいですね。そのためにリバネスの大阪本社も呼び、大阪でそういう超異分野学会という、これは世界中からそういう最先端の科学技術のチャレンジャーが集まる場所を、去年は港区でやりましたし、今年も湾岸エリアでやりましたんで、そういうような形で進めていっているところですね。

○近藤委員 物づくりに子どもたちをどう絡めていくかという部分は具体的な例ってあるんですか。

○筋原区長 さっき申し上げた築港小学校の6年生に実際に考えてもらって子どもたちのアイデアで新製品を作るということですよ。そういう経験を通じてですね。他にも、去年は同じく、築港小学校が子どもたち一番減っていますので築港小学校にどうしても力入れちゃうんですけど、理科の王国というKINCHOとかHONDAとか一流企業が自分たちの研究室で秘密にやっているような研究成果の一部を子どもたちに開放して体験をさせてくれるという、そういうプログラムも去年やりました。

○三上教育担当課長 すみません、ちょっと補足で。直近になるんですけど、6月9日、今日来ていただいています加藤校長先生のところ、ガレージミナトさんが波除にありますので波除小学校の子どもさん中心に、ロボットプログラムという形で港区の町工場のプロの職人

さん方、マスターに来ていただいて、直接指導していただいたりといったそんな取組で、働く方々との連携というか、させていただいているところもございます。またそういった取組もどんどん拡充していきたいと考えております。

○筋原区長　ちなみに追手門大学はロボットコンテストでは世界一になったこともある非常に力のある学校なんで、それがガレージミナトに来てその熱量でスイッチ入って、港区でもぜひ子どもたちにプログラミングを協力したいということでおっしゃっていただいている、そういう動きは他の企業、区外の企業からもそういうお申し出はありがたいことに今幾つかいただいていますので、そういうのも活用して子どもたちにそういう今の世界の最先端の技術に触れるというのを進めていきたいなと思います。

○薮井議長　大丈夫ですか。

ほか。

前川さん、どうぞ。

○前川委員　すみません、前川です。

今ちょっと子どもの夢の話聞いたんですけども、私個人的な話になると思うんですけども、上の娘が今高校1年生なんですけど、最近ちょっと高校生の女の子から誘いがありまして、何の誘いかというと自分たちがデザインした服を着てファッションショーをやるという話を聞いたんです。それを自分たち、高校生たちでやろうとしている話だったんですね。いろいろ話聞いてみたら、ちょっとそのやり方無理あるぞというアドバイスはしたんですけど、いくいく話聞いていると、自分たちでデザイン考えて、それを服で作って、それをいうたらファッションショー、自分たちですというアイデアはすごくいいアイデアやなと思って聞いたんです。うちの娘に、やるんやったら本当にみんな高校生らで集まっていろいろアイデア出し合っているいろいろそれを考えたら、大人、私なり協力して港区でどこかでファッションショーができる場を作って、港区からファッション発信できるぐらいのものを作ってやってもええぞということは娘に言うているんですけど、その話があった中で、娘の同級生で登校拒否の女の子がいてるんです。うちの娘に、その子ちょっと声かけて一緒にやれへんかというのを言うてあげてみたらと言うたら、その子学校行けていないんですけど、ファッションのこういうことやるのは参加したいという話のことを言っているんです。

ということは、女の子が興味を持つようなことでたまたまそういう話になったんですけど、いろんなことで子どもたちに夢を与えられるアイデアを1つずつ出していったら、登校拒否をしている子をいうたら社会的なところに上げてやれば、あ、みんなとうまくやれるやんと

ということで学校にも出てくれるんじゃないかなという気は私なりに思っているんです。だから、物づくりはいうたら男の子の夢の中でテーマはあると思うんですけども、やっぱり女の子とかがあったらなかなか物づくりというところ、取っつきにくいところもあると思うんですね。だからそういう何か違った、いうたら音楽のこともそうですけども、何かそういう興味を持たせてやるやつをもうちょっと大人がいろいろ考えてやっていけたらなどは思っております。

○薮井議長　そうですね。男女は問わずなんですけど、いろんな方向性の子どもが夢持てるようなアイテムというものを創出していくというのも大人の役割かなと、前川さんおっしゃること、僕も思います。それは取組をぜひ進めていただきたいなと思います。

ほかありますか。大丈夫ですか。

人口を増やすためには、今育っている子どもたちがそのまま大きくなったら港区で自分たちの子どもを育てたいというふうにするのが一番手っ取り早いし確実だと思うんで、まずは今学習している子どもたちの満足度というのをいかに上げていくかだなというふうには僕個人はちょっと思っているんで、そういった取組をこれからも続けていきたいというふうには思っています。

区役所から、あと報告、その他のほうにいかせていただきます。

○三上教育担当課長　すみません、ありがとうございます。

チラシの2枚目でございます。ヒマワリの絵が描いてあるんですけど、教科書展示会でございます。今、港区民センターのほうで小学校と中学校の教科書を6月30日まで、もう本当に今週末なんですけど、1階のロビーの奥で展示させていただいております。令和2年度から小学校で使用する教科書の採択に向けまして区民の皆様にご意見を、参考にさせていただくためにアンケートを実施しております。これまで教科書の採択は市で1つの単位でございましたが、今回から4ブロックに分かれて採択することになっておりまして、港区は此花、西淀、淀川、東淀川と1つのブロックであることから、これまで以上に港区の子どもたちにふさわしい教科書を採択できることになっております。こうしたことから、ぜひ区内の保護者の方や地域の方からより多くのご意見をアンケートで寄せていただきたいと考えております。子どもたちによりよい学習環境を提供するために、ぜひ区民センターに足を運んでいただきましてアンケートのご記入にご協力いただきたいと思っております。また、令和2年度から小学校の5年生からの英語の教科書につきまして、その教科書も展示しておりますので、ちょっと情報提供させていただきました。よろしく願いいたします。

○筋原区長 教科書、非常に大事な話やと思っけていまして、ちょっとあまりアンケートの数まだ少ないんですよ。本当にぜひお願いします。

○藤田総合政策担当課長 すみません、もうしばらくお時間いただきたいと思っけています。総合政策担当、藤田でございます。

教科書の展示会の資料をちょっとめくっていただきますと、後ろのほうなるんですけど、白黒で、すみません、アンケートが2つありまして、それをお願いしたいと思っけています。わかりますでしょうか。

1つのほうが港区の区政会議こども青少年部会に関するアンケートというものでございませう。おわかりでございませうでしょうか。このアンケートなんですけど、昨年の第2回の区政会議の場でも実施させていただきまして、結果も報告送付させていただきましたが、皆様方の任期、9月末ということになりますので、これが最後の部会ということでもございませうので、再度、すみません、アンケートをお願いしたいと思っけております。裏表で簡単なものでございませうので、ご記入いただきたいと思っけています。期限なんですけど、8月いっぱいまで受け付けておりますので、ファックスとか、それからメールとか郵送でも結構でございませうので、港区役所の総務課のほうまでいただければと思っけています。7月2日に全体会議がございまして、ちょっと申しおくれましたが、この全体会議につきましても奮ってご参加いただきたいと思っけています。この全体会議のときに持ってきていただいても結構でございませうし、ファックスとかメールでいただいても結構です。送り先につきましてもは、資料をご送付いたしました際に1枚目の紙がついておりまして、その中で担当というところでファックス番号とかメール、宛て先もございませうので、お願いできたらなと思っけております。1つ目のアンケートについては以上でございませう。

もう一つ目のアンケートでございませう。めくっていただきますと、港区の区政会議の構成に関するアンケートというのがございませう。これ、新たなアンケートということなんですけど、ここでも書かせていただいておりますが、区政会議の構成につきましても見直しをしていくべきかなと思っけております。皆様方の各部会、これは青少年部会なんですけど、ほかに2部会ございまして、大体15から18名程度でどちらの部会も、本日もまさにそうなんですけど、非常に活発にご議論いただいております。しかしながら全体の会議、先ほど申しましたように今度は7月2日にあるんですけど、そうなりますと3部会の方が全部参加いただきまして、数としては50名という形になります。これは区政会議、条例と規則で規定されておるんですけど、その上限に達しているようなところでございまして、他の区に比べてもかなり多いとい

うこととございます。多いということはどう捉えるかということなのですが、50名ぐらいということとございますと、お一人お一人の方にご意見をいただいて、また活発にご議論を展開していただくということになりますとやはり多過ぎるのかなというのがイメージとして持っております。考え方として、できましたら全体会議については20名から30名ぐらいに縮小できればなと思っておりますが、この全体会議と申しますのが区政会議の委員の皆様全員にご参加いただくということになっておりますので、全体会議を縮小することになりますと、区政会議の委員の見直しということもつながってくるということになります。そうしますと、部会に参加いただく数も減っていただくということになるんですが、先ほど申しましたように各部会、この青少年の部会もそうなんですが、活発にご議論いただいておりますので、各部会につきましては人数を維持いたしまして、活発にご議論いただきたいというのは思っております。

このアンケートですが、まず1ページ目で委員の数などにつきまして、それから全体会議の出席のご意向につきましてお聞きしたいと思っております。ちょっと裏を見ていただきますと、試案に対するご意見というのがございまして、この試案なんですが、次の、すみません、別紙のところをちょっと御覧いただきたいと思っております。先ほど申しましたように、全体会議の数を見直しまして20から30にすると同時に、各部会につきましては15から18名の現状を維持しながらというふうに考えております。そのやり方が、試案でございますけど、案の1と案の2がございまして、

案の1につきましては、御覧いただきますと、区政会議、20名から30名ということになりますので、地域活動協議会は地域の代表の方、11地域ございまして、これは維持するということになりますけど、団体から推薦を受けている方、それから公募委員の方につきましては数を少なくしていくということです。そうなりますと部会が少なくなってしまうんですが、区政会議の委員の方にご参加いただくとともに、団体の方とか一般の区民の方からもお越しをいただきまして、区政会議委員の肩書はなくなってしまうんですけども、区政会議委員の方以外からも出席いただいて意見をいただくということにしていきたいと考えてございまして、それで数を維持していくという考えでございます。

後ろのほうの案の2なんですけど、これにつきましては同じく区政会議自体は、全体会議ということになりますけど、20から30に減らしていくんですけども、各部会につきましては条例で規定される区政会議の部会という位置づけからは外れまして廃止をしていくということになります。しかしながら、各部会につきましては、条例に規定しない独自の会議という

ことで新たに設定させていただきまして、これにつきましては、区政会議の委員の方のほか、専門委員ということで団体からの方、それから一般の募集の方合わせまして15から18ぐらいでそれぞれ運営していきたいと考えております。

こども青少年部会につきましては、教育会議という位置づけがございますので、案の1、案の2につきましてもそれぞれ教育会議ということになります。ただ、案の2につきましては、条例から外れるということなんですけど、教育会議という位置づけのもとで新たに要綱を作るなどして運営していくということです。

案の1と2の違いなんですけど、案の1はあくまで区政会議の一部ということになりますので、条例とか規則に則った運営ということになりますが、案の2ということになりますと、新たに独自に、この会議、部会ですと教育会議の要綱をつくっていくということでございますので、1に比べますとややちょっと弾力的に会議運営するという可能性も出てくるのかなというふうに考えておまして、この案の1、案の2につきましてもちょっとご意見を賜れたらと思っております。

できましたらこの場で書いていただくのが私たちとしては助かるんですが、ちょっと時間が遅くなっているということでございますとか、持ち帰ってご記入いただく必要がある場合、それから団体から来られている方は団体の他の方にご相談の上書かれるということも考えられますので、この場でちょっとお書きにくいということでございますと、持って帰っていただきましてまた、封筒をお渡しいたしますので、大変恐縮ではございますけど、次の全体会議までにご意見の傾向を把握したいと思っておりますので、6月27までにまた送っていただけたらなと思っております。その上でまた7月2日の全体会議で区としての合意、方針みたいなものをお示ししてまたご意見をいただけたらなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○薮井議長 大丈夫ですか。もうほかにないですね。

長時間にわたり、どうもありがとうございました。9月に任期が切れるということは、これがもう最後の部会ですし、こういった議論というのも今回で最後ですが、引き続きさまざまな形で皆さんも港区の教育行政にかかわっていただきたいと思っておりますし、僕自身もそういった形で少しでもよりよくなるようにというふうなかかわりをしたいと思っております。本日はどうもありがとうございました。